

堀江家旧蔵本(1) 概要

1: 文書群番号	083003
2: 文書群名	堀江家旧蔵本(1)
3: 出所	堀江泰弘家
4: 家業・役職等	藩医・町医師
5: 地名	摂津国川辺郡尼崎別所町／兵庫県川辺郡尼崎町/内尼崎町／尼崎市東本町
6: 行政区分	尼崎藩領／兵庫県第9区／尼崎町戸長役場／尼ヶ崎町／尼崎市
7: 歴史	堀江家は尼崎藩青山氏時代(1635～1711)に藩出入りの医師となり、青山氏移封後は如託(明治25年没)の時代まで、城下別所町で医師をしていた。代々学芸を好む家柄であった。受贈書籍のほとんどは、堀江義造(大正6年・1917没)の時代までに集められたものである。
8: 伝来	昭和58年、堀江泰弘氏が史料館へ寄贈。番外54点、堀江家旧蔵本(2)100点、堀江家旧蔵医学関係書170点、尼崎市医師会寄贈同家旧蔵本(医学)169点と本来一体。
9: 史料入手先	堀江泰弘氏
10: 点数	539点(目録件数278件)
11: 年代	万暦24(明暦/1596)～大正13(1924)
12: 構造と内容	<p>堀江家旧蔵本のうち、最も古いものは、明代万暦24年(1596)の『書言群玉要刪』であり、和本としては寛永19年(1642)の『古文真宝』である。なお、奥書から17世紀の刊行と確認できるものは、21種70冊に及ぶ。</p> <p>刊本は木版を主とし、銅版、活版も含まれている。手写本も多い。また散見される蔵書印や書込みからは、如琢以降の名を見ることができ、少なくとも如圭、如託、義造の三代はこの文庫を「有隣堂」あるいは「桃酒舎」と称していたと推測される。</p> <p>尼崎に関係するものでは、『続浪華郷友録』(文政6・1823)に尼崎の文化人として横山仁二、本咲政五郎、高木専輔の名前が紹介されている。また、『奉納発句集』(文化年間・1804～1818)は堀江春雄をはじめとする旧尼崎町の俳人を中心に編まれたものであり、この他にも『人生歓喜時』(文化6)『阿沙野』(同8)『呉竹集』(同9)には、春雄ら十人前後の尼崎俳人の句が収録されている。『狂歌芦分舩』(寛政7・1795)には、尼崎の狂歌作者の名も見られる。</p>
13: 関連史料	堀江家旧蔵本番外、堀江家旧蔵本(2)、堀江家旧蔵医学関係書、尼崎市医師会寄贈堀江家旧蔵本他
14: 閲覧条件	原本
15: 作成者	河野未央